

令和元年度 事務事業総点検シート(1)
[平成30年度事務事業]

| | | | | | |
|-------|--|-------------------------|--|------------|--|
| 一般会計 | | 事務事業分類 | | A 一般事務事業 | |
| 事務事業名 | | スマートハウス等導入支援事業 | | シート番号 | |
| 担当部署名 | | 環境 局 環境都市推進 部 環境エネルギー 課 | | 評価責任者(課長名) | |
| | | | | 百濟 | |

Ⅰ. 基本情報

| | | | | | | |
|------|---------|---|--|---|-------------------|-------------|
| 基本情報 | 1 | 堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け | 政策 | 5 | 持続可能な環境共生都市を実現します | 後期実施計画の位置付け |
| | | | 施策 | 1 | 市民の環境文化の創造 | 有 |
| | 2 | 事業開始年度 | 平成 26 年度 | | 終了(予定)年度 | — 年度 |
| | 3 | 根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等) | 堺市スマートハウス化支援事業補助金交付要綱、堺市ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)支援事業補助金交付要綱 | | | |
| | 4 | 関連計画 | 堺市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)＜堺市環境モデル都市行動計画＞、堺市エネルギー施策方針 | | | |
| 5 | 事業実施の経緯 | 平成21年1月に国から「環境モデル都市」に選定され、大幅な温室効果ガス削減目標を定めた「環境モデル都市行動計画」に基づき、住宅等の太陽光発電システム設置に対する補助を開始。平成26年10月より東日本大震災に伴う電力需給のひっ迫を踏まえ、エネルギーの地産地消や非常時の電源確保にも資する「スマートハウス化支援事業」に移行し、太陽光発電システムに加え、HEMS、燃料電池、蓄電池等を複合的に設置した場合や、太陽熱利用システムの設置費用の一部補助を実施している。また、平成30年度から、パリ協定等を契機に新たに策定した「地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」を踏まえ、徹底した住宅の低炭素化のため、住宅エネルギー消費をプラスマイナスゼロとする「ゼロエネルギー住宅(ZEH)」に対する補助制度を新設し、令和元年度現在、スマートハウス構成機器等に対する補助制度とZEH支援事業の2事業を実施している。 | | | | |

Ⅱ. 事業概要

| | | | | | | | | |
|------|--------------|--|---|--|--|--|--|--|
| 事業概要 | 6 | 事業の実施主体(誰が実施しているのか。) | <input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 () | | | | | |
| | 7 | 事業の対象(誰を、何を対象としているのか) | 民生、業務部門における温室効果ガス排出量を減少に転じさせるため、市内戸建て住宅や集合住宅、地域会館などの小規模事業所等を対象にしている。 | | | | | |
| | 8 | 事業の目的(どのような状況にしたいのか) | 低炭素都市「クールシティ・堺」の実現をめざし、住宅・小規模事業所等における太陽光発電などの再エネ導入や、省エネの推進等により効率的なエネルギー利用を促進、温室効果ガスの削減、また非常時に備えた電源確保等を図り、安全・安心なエネルギー利用を図るもの。また、住宅においてエネルギーの地産地消生活の推進を図っていく。 | | | | | |
| | 9 | 事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど) | 戸建住宅、集合住宅、小規模事業所等に対し先着順で予算の範囲内で受け付け、審査を経て所定の補助金を交付。 ＜戸建住宅の場合＞①～④または⑤を複合的に設置した場合 ①太陽光発電システム 1kW当たり2万円(上限8万円) ②住宅用エネルギー管理システム 機器本体額の1/2(上限1万円) ③燃料電池コージェネレーションシステム 設置費の1/5(上限8万円) ④リチウムイオン蓄電池システム 機器本体額の1/5(上限10万円) ⑤ピーク・トゥ・ホームシステム 設置費の1/5(上限10万円) ⑥上記①～④または⑤を複合的に設置した新築戸建住宅のうち、国が定めるZEH水準などの条件を満たす場合はZEHに係る加算補助 10万円 ＜集合住宅の場合＞①～③を設置した場合 ①HEMS(住宅用エネルギー管理システム) 機器本体額の1/2(上限1万円) ②燃料電池コージェネレーションシステム 設置費の1/5(上限8万円) ③リチウムイオン蓄電池システム 機器本体額の1/5(上限10万円) ＜小規模事業所等の場合＞①～④または⑤を複合的に設置した場合 ①太陽光発電システム 1kW当たり2万円(上限8万円) ②EMS(エネルギー管理システム) 機器本体額の1/2(上限1万円) ③燃料電池コージェネレーションシステム 設置費の1/5(上限8万円) ④リチウムイオン蓄電池システム 機器本体額の1/5(上限10万円) ⑤ピーク・トゥ・ホームシステム 設置費の1/5(上限10万円) ＜戸建住宅に太陽熱利用システムを設置した場合＞ ①強制循環型システム 設置費の1/5(上限10万円) | | | | | |
| 10 | 直接実施以外の主な支出先 | <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 () | | | | | | |
| | | 対象機器を導入した市民及び小規模事業者 | | | | | | |

Ⅲ. 投入量

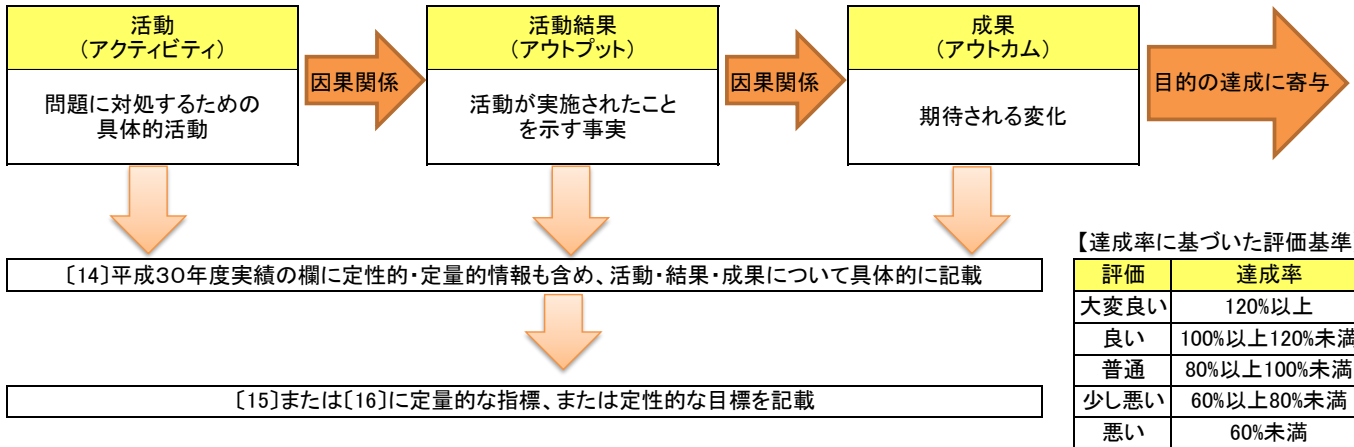
| 項目 | | 単位 | H28年度決算 | H29年度決算 | H30年度決算 | R1年度予算 | |
|-------|-----------------|------------------|---------|---------|---------|--------|--------|
| 事業コスト | 事業費(a) | 千円 | 87,908 | 53,890 | 70,000 | 64,350 | |
| | 主な事業費内訳 | 負担金、補助及び交付金 | 千円 | 86,926 | 52,938 | 69,036 | 63,000 |
| | | 賃金 | 千円 | 848 | 864 | 763 | 1,042 |
| | | 役員費 | 千円 | 55 | 34 | 132 | 70 |
| | | 需用費 印刷製本費 | 千円 | 15 | 11 | 46 | 75 |
| | | 国・府支出金 | 千円 | | | | |
| | 財源内訳 | 受益者負担金(使用料、手数料等) | 千円 | | | | |
| | | 市債 | 千円 | | | | |
| | | その他() | 千円 | | | | |
| | | 一般財源 | 千円 | 87,908 | 53,890 | 70,000 | 64,350 |
| | 12 | 人件費(b) | 千円 | 21,010 | 15,760 | 20,110 | 20,010 |
| 13 | 総コスト(c)=(a)+(b) | 千円 | 108,918 | 69,650 | 90,110 | 84,360 | |

令和元年度 事務事業総点検シート(2)

| | | | |
|-------|----------------|-------|-------|
| 事務事業名 | スマートハウス等導入支援事業 | シート番号 | 10-06 |
|-------|----------------|-------|-------|

Ⅳ. 評価(測定・分析)》

ロジックモデルの考え方



【達成率に基づいた評価基準】

| 評価 | 達成率 |
|------|--------------|
| 大変良い | 120%以上 |
| 良い | 100%以上120%未満 |
| 普通 | 80%以上100%未満 |
| 少し悪い | 60%以上80%未満 |
| 悪い | 60%未満 |

事業の活動内容や成果

| | | 平成30年度実績 | | | | | | |
|-------------|-------------|--|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 活動実績と成果 | 14 | <p>平成30年度の補助申請があった発電の出力累計は1292.1kw、CO2削減量は635.0tであり、事業開始の平成21年度からでは出力累計43,382kw、CO2削減量は21,965tとなった。再生可能エネルギーへの市民の関心は一定数あり増加傾向を示している。本補助制度の普及啓発については市が開催するイベント等で9回、民間(住宅メーカー等)が開催するイベントで4回、計13回行い、これらの普及啓発の効果により補助申請の増加したと考えられる。</p> <p>【申請件数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 戸建住宅、集合住宅等、小規模事業所等の補助申請数 ○太陽光発電システム 287件 ○HEMS 330件 ○燃料電池システム 362件 ○蓄電池またはV2H 169件 ○ZEH加算 14件 | | | | | | |
| | 15 | 指標名 | 単位 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | |
| | | 市域における住宅用太陽光発電システム導入量 | kw | 目標値 | 54,360 | 60,060 | 65,760 | 71,460 |
| | | | | 実績値 | 50,716 | 53,492 | 56,057 | |
| | | | | 達成率 | 93% | 89% | 85% | |
| | 評価 | 普通 | 普通 | 普通 | | | | |
| | 算出方法・設定根拠など | | 資源エネルギー庁の統計データ | | | | | |
| | 16 | 指標名 | 単位 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | |
| | | スマートハウス等導入支援事業周知のための広報活動 | 件 | 目標値 | 6 | 10 | 10 | 10 |
| | | | | 実績値 | 20 | 16 | 13 | |
| 達成率 | | | | 333% | 160% | 130% | | |
| 評価 | 大変良い | 大変良い | 大変良い | | | | | |
| 算出方法・設定根拠など | | 事業者向け・市民向け説明会、事業者へのヒアリング、関連イベントへの参加、広告掲載数 | | | | | | |

業績の分析

| | |
|----|---|
| 17 | <p>目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析(その他、関連情報に基づいた分析)</p> <p>市域における住宅用太陽光発電システム導入量は56.057kWである。スマートハウス等導入支援事業の補助申請件数は大幅に上回り、市民の再生エネルギー導入意欲も高いと推測される。また、予算執行率も97%であり、市民の補助金に対する関心も高いものとなっている。</p> <p>また、蓄電池の申請件数も大幅に伸び、固定価格買取制度の終了や災害による停電等への対応への関心も高いと考えられる。</p> <p>事業周知として、事業者へのセミナーの実施や補助金の制度の在り方、また次世代型住宅の普及に向けた事業についてヒアリングを実施するとともに、事業者が実施するイベントへ参加し、市の補助金制度について新聞折り込みチラシへの掲載、来場者に広く周知する等、事業者と連携した周知活動を行った。</p> |
|----|---|

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありましたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありましたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。